

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 1/3

第1問

5 10 15 20 25 30

8世紀前半にはイラン系ソグド人の交易を保護した唐が、パミール高原東部も支配したが、751年のタラス河畔の戦いでアッバース朝に敗北し後退した。西部では9世紀にイラン系サーマーン朝が自立し、東部ではウイグルの滅亡を機にタリム盆地に進出したトルコ系勢力がイスラームを受容し、10世紀半ばにカラハン朝を建国した。10世紀末にカラハン朝がサーマーン朝を滅ぼすと、全域のトルコ化とイスラーム化が進展した。12世紀に宋と金により遼が滅ぶと、その一族がカラハン朝を滅ぼして西遼を建国した。13世紀初頭には、西部で西遼から自立したホラズム朝が強大化したが、ナイマンを滅ぼして進出したモンゴル帝国に征服され、トルキスタンはチャガタイハン国の版図となった。14世紀後半には西部にティムール帝国が出現し、西アジアも征服してアンカラの戦いでオスマン帝国の再編を促した。イラン人世界も支配したティムール帝国の下でイラン=イスラーム文化の影響を受けたトルコ=イスラーム文化が発展した。16世紀初頭にウズベク人によりティムール帝国が滅亡すると、その一族バーブルはインドに進出してムガル帝国を建国した。東部は、18世紀にジュンガルを滅ぼした乾隆帝により清の藩部となり、新疆と称された。19世紀には、インドに進出したイギリスに対抗しつつ、南下を進めるロシアが西部に建国していたウズベク人のブハラ・ヒヴァ両ハン国を保護国とし、イリ事件で清とも対峙した。

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 2/3

第2問

5 10 15 20 25 30

- (1)
- (a) バビロン第1王朝の前18世紀にシュメール法を集大成した法典で、同害復讐の原則にたち、当事者の身分により刑罰に差があった。
- (b) イブン=ハルドゥーン
- 5 (c) アメリカと国際石油資本の支援を背景に土地改革や女性参政権付与などの白色革命と呼ばれる近代化政策が国王主導で行われた。
- (2)
- (a) イングランド王ジョンは、フランス王フィリップ2世との戦争に
10 敗れて大陸領の大半を失ったうえ、戦争の継続のために重税を課した。これに反発した貴族は王に迫り新たな課税の際には高位聖職者と貴族の同意を必要とすることなどを定めた大憲章を認めさせた。
- (b) イタリアの政治的混乱を収拾するため、宗教・道徳を政治から切り離し、軍事や権謀術数を通じた力による君主の統治を主張した。
- (3)
- (a) 康有為、梁啓超 (※順不同)
- (b) 洋務派官僚に反発し、孔子を政治的改革者にとらえ、明治維新を
15 範に立憲君主制の樹立を目指す変法が主張された。光緒帝の下で改革が断行されたが、性急な改革や独自の儒教解釈は有力官僚や郷紳の支持を得られず、西太后ら保守派による戊戌の政変で挫折した。

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 3/3

第3問

5 10 15 20 25 30

- | | |
|----|-----------------------|
| | (1) アクスム王国 |
| | (2) マムルーク朝 |
| | (3) アチェ |
| | (4) ラス=カサス |
| 5 | (5) フィヒテ |
| | (6) イギリス, フランス (※順不同) |
| | (7) 大陸横断鉄道 |
| | (8) ヒンデンプルク |
| | (9) スカルノ |
| 10 | (10) インティファータ |